



ハトダヨ
2021年
11月号

函館市中央図書館

編集・発行

函館市中央図書館 指定管理者

図書館流通センター・マルエイヘルシーサービス共同事業体

TEL 35-5500 FAX 35-5525

函館市中央図書館だより

第66号 令和3年11月1日 発行

予約 ランキング

予約数の多い本ランキングを紹介
します。こちらを参考に読みたい
本を探すのも一つの方法です。

令和3年10月1日現在、予約回数が多かった本をご案内しています。

図書館俳句ポスト受賞者

7月に図書館俳句ポストへ応募された中から
選ばれた作品です。お題は「日傘」。

- | | | |
|----|-------------|----------|
| 1 | 白鳥とコウモリ | 東野 圭吾／著 |
| 2 | 52ヘルツのクジラたち | 町田 そのこ／著 |
| 3 | 小説8050 | 林 真理子／著 |
| 4 | 透明な螺旋 | 東野 圭吾／著 |
| 5 | にぎやかな落日 | 朝倉 かすみ／著 |
| 6 | 琥珀の夏 | 辻村 深月／著 |
| 7 | 魂手形 | 宮部 みゆき／著 |
| 8 | 老いの福袋 | 樋口 恵子／著 |
| 9 | 疼くひと | 松井 久子／著 |
| 10 | エレジーは流れない | 三浦 しをん／著 |

特選
螢光灯シェードの裏に蠅の影
銀子

入選
姫の子に小遣い渡す盆の夜
雲の峰地図を広げて世界旅
吉岡宏祥
吉田みね子

佳作
空を見る猫の目線の先は蠅
静謐や触れるを拒む夏椿
小野寺礼子
白澤紀恵子

国あげてどこへ日傘をさしゆけり
末永玲子

花万朶小さき町をもも色に
高桑祐子

自販機の無糖サイダーまで歩く
中佐助人

青鷺の塑像の如く定位置に
練合陽子

言いさしの言葉失う螢かな
村田鈴音

山百合の蕊ゆれにけり仁王門
安福巖

雨蛙緑の島の船縁に
田川管子

五稜郭に消えた“剛腕官吏” 荒井金助

開催日：令和3年11月20日(土)
時間：14:00～15:30 (13:30開場)
場所：函館市中央図書館 1F 視聴覚ホール
講師：工藤義衛氏 (石狩市文化財課 課長)
定員：70名 (申込不要・先着順)
※定員に達した場合は入場をお断りいたします

幕末期、箱館奉行・堀利熙により抜擢され石狩場所に赴いた荒井金助は、石狩地方のみならず場所請負制度の廃止や油田・炭鉱の発見、新道開削など蝦夷地の発展に尽力。その後堀利熙に随行し榎本武揚・島義勇らと共に樺太・蝦夷地の調査も行います。療養中の函館で五稜郭の堀に落ちて非業の死を遂げるまでの北海道での功績をお話いただきます。

ハトダヨにしか
載っていない!

ぜひ読んでみてください!

スタッフのおすすめ本

棚：A22-24
請求記号：911.56 タカ

タイトル：「**道程**」

著者：高村光太郎 出版社：日本図書センター（1999年12月）

彫刻家でもあり詩人でもあった高村光太郎の処女詩集で、後年の『智恵子抄』とともに代表作として知られています。今回おすすめするのは、この詩集に「冬の詩」という作品が収録されているからです。

冬は、一般に「寒い」「暗い」といったマイナスイメージで語られがちですが、詩人の感性はそうしたものを悠々と飛び越え、冬という季節を、力強い存在として厳しさを滲ませつつ朗らかに謳い上げています。本書収録の「道程」や「根付の国」などの作品ももちろん魅力的ですが、この季節にこそ「冬の詩」を読んでみてください。

棚：児 3-6
請求記号：E タケ

タイトル：「**すきなことにがてなこと**」

著者：新井 洋行 絵：嶽 まいこ 出版社：くもん出版（2021年2月）

ぼくはスポーツが大好き。でも、皆の前で発表することが苦手…。だけど、そういうときは話すことが大好きなりんちゃんが、一緒に発表してくれる。そんなりんちゃんは動物が苦手で…。

「好き」と「苦手」が皆それぞれ違う子供たちが登場しますが、一人ひとりの個性を尊重し、お互いに助け合う優しい世界が描かれています。自分の苦手なことを誰かが助けてくれる。そして、自分の好きなことが誰かを助けている…。温かな連鎖に癒され、勇気づけられる一冊です。

棚：A22-24
請求記号：802 ヨシ

タイトル：「**なくなりそうな
世界のことば**」

著者：吉岡 乾 出版社：創元社（2017年8月）

ベストセラー『翻訳できない世界のことば』シリーズの本。温かなイラストと合わせて言葉を紹介するちょっとした小話を掲載し、まるで大人向けの絵本のような体裁ですが、この本の前書きには「話者の少ない言語には、多くの人が話す言語よりも人々の生活や文化的背景が色濃く表れる」といった内容が綴られています。言葉と共に、失われつつある『その言葉らしい文化』を垣間見ることのできる1冊です。

グローバル化が進む今だからこそ、敢えて『なくなりそうな言葉』が持つ文化に触れて思いを馳せる…そんなひと時はいかがでしょうか。

館長随想（六六）



皆さんは荒井金助直盈（なおみつ）といってもご存知ないと思います。箱館奉行所の役人でした。奉行堀織部正利熙の元で支配並となりますが、石狩役所に派遣されます。まだ札幌は原野でしたが、隣の石狩は鮭漁が盛んで町が形成されていました。荒井は石狩を発展させ、更にはいまの札幌市北区篠路地区に開拓団を入れ開墾を始めます。その後室蘭に移りますが、奉行の命で箱館に戻り、五稜郭の堀に落ちて死にました。病を得ていたようなので、誤って堀に落ちたと言うのが定説ですが、自殺説、他殺説もあります。業績を残した石狩、札幌では知る人は多いのですが、函館では少ないかもしれません。

札幌は現在の中央区ではなく、北区から開拓されたこと、石狩は荒井金助が活躍した安政年間には昭和まで続く俳句結社がある町だったことなど、面白い歴史があります。札幌の中央区はほとんど原野でしたが、現在札幌の一番の中心部あたりに豊平川岸に志村鐵一を川の渡し守として配置したのも荒井金助と言われています。札幌の開拓者としては先ず島義勇の名が思い浮かびますが、その30年以上前に開拓は始まっています。明治になって既に農業がさかんになっていた篠路からは、農民たちが荷車に野菜を積んで札幌の中心部まで売りに行っていました。

荒井は、五稜郭で非業の死を遂げ、現在は篠路にある龍雲寺の墓で眠っています。荒井金助とはどんな人であったか、石狩市の学芸員工藤義衛さんが図書館で語ります。私は彼の死を工藤さんがどのように解釈するか楽しみにしています。

※1ページ目に講座のご案内がありますのでどうぞご覧ください。

デジタル資料館 紹介



ギッシリ並ぶ映画の看板（1960年11月）ph004535

インターネットの普及により自宅で映画やドラマを手軽に観られるようになりました。私が子どもの頃、映画は映画館で観るもので、特別な娯楽でした。ストーリーはわすれてしまいましたが、大きなスクリーンと迫力のある音に感じた臨場感は今でも覚えています。

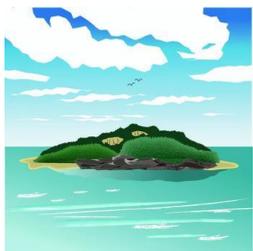
古典ミステリへの招待



読書の秋、もう読みたいものは読んでしまった！という方へおススメなのが古典ミステリ。
当時は話題になっても、今ではすっかり忘れられてしまった名作が数多くあります。
ミステリは必ず「事件」が起きるので、退屈せずに読めるのがいいところ。
古今東西、殿堂入りとなった古典ミステリの名作を何点かご案内します。

幻の女 (初版 1942年) ウイリアム・アイリッシュ／著

「夜は若く、彼も若かったが～」冒頭の一節はミステリ史上もっとも有名。
妻殺しの嫌疑をかけられた男は、無実を証明するために、ある女を見つけ出さなければいけない。が、なぜかその女は「幻の女」となり…。ミステリマガジン海外ミステリベスト 100 (1991年6月号) ベスト1の傑作。



そして誰もいなくなった (初版 1939年) アガサ・クリスティ／著

孤島に閉じ込められた十人がマザーグースの童謡に合わせ、一人ずつ殺されていく。
名探偵も登場せず、トリックが奇抜なわけでもなく、とにかく作者の大胆な着想と筆力のみで、ここまでの名作となりました。世界各国で映画化もされています。文藝春秋編東西ミステリベスト 100 (2013年)、堂々西のベスト1。

不連続殺人事件 (初版 1948年) 坂口 安吾／著

「墮落論」で知られる著者は探偵小説ファンでもあり、犯人当ての懸賞金までつけて読者に挑んだのがこの作品。実際に賞金をもらったのは四人とされています。癖のある芸術家たちが集まる山荘で起こる連続殺人事件。読者に対し、すべての手がかりは書いてあるとして、知恵比べを挑んでいます。勝てそうな方は是非ご一読を。



獄門島 (初版 1949年) 横溝 正史／著

金田一耕助シリーズ最高傑作。瀬戸内海の島で、三姉妹が俳句に見立てられながら次々と殺される。文藝春秋編東西ミステリベスト 100 (2013年)、堂々東のベスト1は、この作品。おどろおどろしい雰囲気ばかり強調されますが、トリックも伏線回収も見事な、横溝正史の最高傑作と言えます。

古いのに新しい、古典ミステリにはそんな魅力があります。人は、どうしても謎に魅せられてしまう、今も昔もその気持ちに変わりはありません。
まだまだある古典ミステリの名作を、また機会がありましたら紹介しますね！
(紹介した本は全て所蔵があります、初版ではありません(笑))

